

地域密着型スポーツクラブでのスポーツマネジメント実践学習

団体名 ● 地域スポーツマネジメント研究室 / 代表者名 ● 西村貴之(人間科学部スポーツ学科准教授)

はじめに

総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」)は「人々が身近な地域でスポーツに親しむことができ、(1)子どもから高齢者まで(多世代)、(2)様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、(3)初心者からトップレベルまでそれぞれの志向・レベルに合わせて(多志向)、参加できるという特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」と説明される。第2期スポーツ基本計画(2017年)では、総合型クラブが地域社会の活性化や「新しい公共」の担い手となることへの期待が示され、地域が抱える社会的課題を多様な組織、団体との連携・協働によって解決していくことがめざされている。一方でスポーツ庁の調査結果では「クラブ運営を担う人材の世代交代・後継者確保」を課題としている総合型クラブは71.4%にも及んでおり、若手人材の発掘や育成が急務となっている。筆者が担当する地域スポーツマネジメント研究室は、「スポーツで人と地域を幸せにする」を理念に掲げ、行政、NPO法人、地域スポーツクラブ、プロスポーツクラブ、企業、まちづくり団体などとの連携プロジェクトを実施し、にぎわいの創出、課題解決といった地域活性化の担い手となる、「地域スポーツマネジメント人材」の育成をめざしている。

活動内容

以下では総合型クラブと本研究室とが連携した3つのプロジェクトを紹介する。

(1) NPO 法人クラブぽっと(金沢市)との連携プロジェクト

日時：2020年8月16日、17日、18日

場所：金沢市医王山地区、奥卯辰山健民公園

参加：フィールド基礎演習を受講するスポーツ学科2年生 15名

内容：NPO 法人クラブぽっとが主催する「医王山大自然沢登り(8/16)」、「水鉄砲大会(8/17)」、「川遊び(8/18)」の3つのイベントにおいて、運営サポートスタッフとして各日5名の学生が参加した。地域が保有する独自の地域資源を、スポーツを用いて活用し、地域の活性化を目指すイベントがどのような意図で開催され、どのような人々に運営が支えられ、その場が形成されているかについての理解を深めた。



沢登り



沢登り(スタッフミーティング)



水鉄砲大会



川遊び

(2) NPO 法人かなざわ総合スポーツクラブ(金沢市)との連携プロジェクト

日時：2020年10月4日(日)

場所：金沢星稜大学体育館メイン・サブアリーナ

参加：本研究室所属スポーツ学科3、4年生 18名
フィールド基礎演習を受講するスポーツ学科2年生 23名

内容：2021年東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、小学生が未経験のオリパラの競技種目を体験することで、それらのスポーツ実施のきっかけづくりやオリパラを楽しく観戦してもらうことを目的として、4種目(ブラインドサッカー、陸上競技、ハンドボール、空手)のスポーツを体験する「Let's Try!! オリパラ・スポーツ DE 愛広場2020」を開催した。実施種目の設定、外部講師への依頼、集客に向

けた募集チラシ作成・配付、予算策定、当日運営管理までのマネジメント業務全般について、クラブの指導のもと、学生主導で実施した。



陸上競技体験



ブラインドサッカー体験

内容：もんぜんスポーツクラブが主催する「スポーツ雪合戦」のイベントにおいて、運営サポートスタッフとして学生が参加した。



スポーツ雪合戦



障がいのある方も参加

(3) NPO 法人宝達志水スポーツクラブ(宝達志水町)との連携プロジェクト

日時：2020年11月23日(月・祝)

会場：宝達志水総合体育館及び周辺施設

参加：本研究室所属スポーツ学科3、4年生 18名
フィールド基礎演習を受講するスポーツ学科2年生 23名

内容：宝達志水総合体育館及び周辺屋外施設を利用して、様々なスポーツや遊びを体験することができる「テーマパーク」をつくり、地元町民に対して施設の新たな活用可能性を提案することを目的とした「宝スポバイキング2020」を開催した。プログラム内容調整、チラシ作成、予算策定、材料調達、当日運営管理までのマネジメント業務全般について、クラブの指導のもと学生主導で実施した。



ドッチビー体験



実験コーナー

(4) NPO 法人もんぜんスポーツクラブ(輪島市)との連携プロジェクト

日時：2021年2月14日(日)

会場：輪島市門前健民体育館

参加：本研究室所属スポーツ学科3、4年生 18名

成果、結果の考察

いずれのプロジェクトにおいても、学生達の存在は、イベント参加者の中心であるこども達との良い距離感が生まれており、参加者満足度を高めることに大きく貢献していた。クラブ関係者からもよい評価を得ることができた。

また、クラブによる指導のもと学生主導でイベントマネジメント業務全般を実施した(2) かなざわ総合SC、(3) 宝達志水SC との連携プロジェクトでは、プログラムづくり、関係各所との調整・交渉、会場・物品手配、マーケティングなど、様々な経験を通じて、学生達は地域スポーツのマネジメントについて実践的な学びの機会を得ることができていた。学びの確認のため、事前の目標設定シート作成と、ルーブリックによる自己評価とふりかえりをプロジェクト後に行った。

今後の課題、展望

総合型クラブ、大学の双方が求める点について対話をつづけ、より良いプロジェクトにむけた設計改善と継続実施に取り組んでいきたい。そして、卒業後も何かしらの形で、スポーツを通じたまちづくりに関わることのできる人材育成を継続していきたい。